
これからはじめる防災対策・12
～避難所のトイレ問題～

●深刻なトイレ問題

皆さんは災害時のトイレといえばどんなイメージをもっていますか？

「臭い、汚い、使いにくい」など、
災害時のトイレ問題が大きなストレスとなったという被災者も数多くいます。

トイレに行くのを我慢して体調を崩したり、
不衛生のため感染症が発生したりするなど
人の健康を害することもあり、
災害時のトイレ問題は深刻な課題です。

●トイレ問題は初動が肝心

既存のトイレを不衛生な状態にしないためには、初動が肝心です！

学校では、組立トイレ・簡易トイレなど
さまざまな災害時用トイレを倉庫に用意しているところもあります。

しかし、時には組立トイレの設置なんか待ってられない場合も。
そこで、既存のトイレに袋をかぶせて使う携帯トイレを活用しましょう。

そのためにも平時から、携帯トイレとその使用方法を
トイレトーパーホルダーの近くに張りつけておきます。
こうすることで、災害時、すぐに災害時用のトイレとして利用できます。

なにより普段から携帯トイレを目にするので
「防災の日常化」を定着させる効果も期待できます。

東日本大震災では、トイレ問題で非常に苦労された学校も多いと聞きます。
学校はもちろんご自宅でも、
ぜひ導入してもらいたい手段のひとつです。

●トイレトーパーの備蓄

災害時は、トイレトーパーも供給不足になると考えられます。
トイレトーパーの約4割は、静岡県で生産されているのご存知ですか？
とくに南海トラフ地震が発生した場合には
全国的に深刻な供給不足となるおそれがあります。

目安として、1ヵ月分1人あたり4ロール程度の備蓄が推奨されています。

●オムツ・生理用品の備蓄も忘れずに

屋外の仮設トイレに長時間並んだり、
夜間に使用するのには、高齢者・障がい者などにとって負担です。

そんな時、紙オムツを使うという選択肢もあります。

紙オムツを有効に使うためには、
避難所にオムツ替えのスペースを設けたり、
おしりふきも用意しておく必要があります。

紙オムツの他、生理用品も備蓄しましょう。

(一財) 防災教育推進協会 笠間 正弘